

# ひとを育てる活動

—チボリの子ども支援—

カレッジ奨学生から支援者への手紙 (11月19日付)

ND マーベル大学4年ジャーマン・フィタン  
クリスマスが近づいて今はとてもいい気分です。  
今月、今まで経験したことのない、ひどい台風が  
来ました。たくさんの方が死に、未だ行方不明者も  
います。子どもたちが親を失い、また子供を失った  
たくさんのお母さんたち。テレビでニュースを見るたびに  
心が痛みます。

しかし多くの国が食料や生活必需品を援助して、  
被災者たちが生活できるように手を差し伸べてくれ  
ました。私たちの国の予期せぬ出来事を分かちあっ  
てくれ、とても幸せに思います。

被災者たちもこの不幸な出来事を受け入れ、子供た  
ちの未来のために、新しい生活をスタートさせよう  
としています。

明日から実習が始まります。大学から近い、市の  
セクターへ配属されました。

今までずっとご支援いただき、ありがとうございます。  
あなたから送ってもらったカードは全部実家  
の小さい箱の中に入れて大切にしまっています。  
それを帰郷するたびに読み返しています。  
ご支援とご理解をととても感謝しています。

— クリスマスプレゼントありがとう! —

チボリ支援会員によるご寄付(28,000ペソ/6.6万円)  
で、SCMSI のラビット、レムエヘック、ベネフ3小学校  
の児童520名分に文具セット(鉛筆、ボールペン、クレ  
ヨン、ノート)を贈りました。



ガンダム校長と里子担当  
のネニータさん、アーミ  
アさんによるレムエヘッ  
ク小での贈呈風景

## ベネフ小学校を初めて訪ねました

前回5月末は、道が悪くて断念したベネフ校訪問、  
雨期を避けた今回は、土曜日でしたが案内してもら  
えました。メインセンターから車で約30分。車を降り  
て少し坂を上ると、高床式の校舎がありました。週末  
で臨時登校した子どもたちが民族衣装で迎えてくれ  
ました。(写真下)

次々に公立移管が進む中、ベネフはSCMSIの3  
小学校の一つとして残されています。訪ねてみてわ  
かったのは、周辺は人家が少なく、公立があってもそ  
の学区はかなり広そうです。SCMSI校がなくなると、  
低学年では通学困難な子どもが増えるというガンダ  
ム代表の懸念も分かる気がします。

歓迎集会を終えて帰る子どもの中には、馬に乗っ  
た男の子が数人いました。さらに山を登ったところに  
家があるそうです。

短時間の訪問でしたが、ベネフの子ども達の通学  
環境を垣間見ることはできて、今後の支援を考える  
上で収穫でした。



## チボリのカレッジ学生事情 一奨学金支援

「ハイスクール卒業後、SCMSI カレッジに進学の予定で  
したが、家族5人の生活は大変で、今はダバオでベビー  
シッターをしています。月収は2,000ペソ(約4500円)で  
す。今年、是非カレッジに入って学業を続けたいと思  
います」

これは、年度初めのリストにSCMSIカレッジ1年と記載さ  
れながら、実際は在籍していなかったダイアナから、年明  
けに里親宛てに届いた手紙の要旨です。

里子はSCMSI校であれば、カレッジ進学後も学費補助  
を受けられます。ダイアナの場合は、弟妹のためにとりあ  
えず仕事に就いてほしいという親の意向に従ったケース  
です。

最近のSCMSIからの新規支援要請には、カレッジ学生  
対象が多くなっています。里親のいないSCMSIカレッジ  
生のほか、成績優秀で、国立のMSUに進学したものの寮  
や交通費を含む学費が続かないケースなどです。このよ  
うな外部の大学進学者のために、今後は年額3000円の  
カレッジ奨学金支援者募集にも力を入れたいと思います。